

# まちかね Vol.3 ミュージアム

発行 / 2022.2.28

発行者 / 大阪大学総合学術博物館

〒 560-0043

大阪府豊中市待兼山町 1-20

博物館ホームページ URL

<https://www.museum.osaka-u.ac.jp>



## 展覧会報告 第15回特別展 乙女文楽－開花から現在まで

－近代大阪に生まれた女性一人遣いの人形浄瑠璃－

大阪大学総合学術博物館では、2021年10月18日より12月18日の2ヶ月間の会期で、「乙女文楽－開花から現在まで」と題した展覧会を開催した。

乙女文楽とは大正期に考案され、昭和初期に大阪で誕生した女性人形遣いによる一人遣いの人形浄瑠璃を総称である。昭和戦前期の大阪を中心に盛んに興行がなされた芸能だが、現在でも各地で伝えられている。

戦後も大阪で活動を続けた一座のうち「大阪娘文楽座」は昭和40年代に解散したが、その際、芸能史研究者の吉永孝雄氏を通じて、人形や道具類はさまざまな方面へ譲渡された。そのうち人形首は文楽関係者などのもとへ渡ったと考えられているが、衣裳道具類の多くは大阪大学へと寄贈された。

今回の展示の中心となったのは、阪大所蔵の衣裳類であった。現役で活動を続ける乙女文楽の組織や個人の方々の協力、また文楽の人形遣いの方々の協力を得て、人形首が含まれない阪大所蔵品だけでは展示の不可能な揃え済の人形も多数展示することができた。

また今回文楽の人形遣いの方から出品いただいた乙女文楽の首が「大阪娘文楽座」解散後に文楽関係者に渡った首と確認でき、30年以上ぶりに「大阪娘文楽座」の衣裳と首が再会するという感慨深い展示となった。

今回の展覧会は科学研究費補助金を利用した研究プロジェクトの一環として開催されたが、その研究プロジェクトを通



展示室の様子

じて、さまざまな関係者、研究者のみなさんの協力を得ることができた。その中で、これまで知られることのなかった興行番付や関係者の書簡などの貴重な一次資料を調査することができ、今回展示することもできた。

また現在でも乙女文楽の活動を続ける団体や個人の方々の協力で、期間中3回乙女文楽の実演と解説イベントを開催することができた。人形浄瑠璃という舞台芸能、その中でも特殊な人形操法をめぐるテーマの展示であったため、実際に人形を操り、作品を上演するイベントを開催することには、大きな意義があったものと考えられる。

展覧会、関連イベントともに新型コロナウイルス対策の厳戒態勢の元での開催となったが、多くの来場者、関係者の協力の元、大きなトラブルなどなく無事会期を終えることができた。来場者、関係者のみなさまへ深く感謝申し上げます。

(横田 洋)

## 展覧会報告

### 身体イメージの創造

#### —感染症時代に考える伝承・医療・アート—

主催 大阪大学総合学術博物館

国際日本文化研究センター

期間 2022年1月17日～2月12日

会場 大阪大学総合学術博物館 待兼山修学館  
3階 多目的室

人は太古より身体に強い関心を抱き、さまざまな絵や図像を創ることでイメージを膨らませてきました。

国際日本文化研究センターの所蔵資料を中心に「疫病と医学」「身体を把握する」「身体への関心」「現代と未来の身体」



展示室の様子

という4つのテーマに分けて、伝承・医療・アートなど幅広い分野にかかわるさまざまな身体イメージを辿り、現代の感染症の時代に、未来へ向けて生きるヒントを探る展覧会を開催しました。

### 徴しの上を鳥が飛ぶⅢ

文学研究科におけるアート・プラクシス人材育成プログラム

活動⑫「[受講生企画] アーツ・プラクシス」展覧会

パブリックアートってなんだ？

— 《タイムストーンズ400》と考える

主催 大阪大学大学院文学研究科

共催 大阪大学総合学術博物館

期間 2022年1月18日～2月5日

会場 大阪大学総合学術博物館 待兼山修学館

野外展示・3階 セミナー室・1階カフェスペース  
「徴の上を鳥が飛ぶⅢ」の受講生が主体となって企画運営するプロジェクト「タイムストーンズ400再創造プロ



野外展示の様子

ジェクト」の展覧会で、今井祝雄作の「タイムストーンズ400」を起点に、さまざまなパブリックアートの現在を考えました。

## 展覧会のお知らせ

### 徴しの上を鳥が飛ぶⅢ

文学研究科におけるアート・プラクシス人材育成プログラム

活動⑤「ジオ・パソロジーを超えて」

金森マユ写真展

「定住とはなんだろう：オーストラリア」

主催 大阪大学大学院文学研究科

共催 大阪大学総合学術博物館

期間 2022年2月22日～3月15日

会場 大阪大学総合学術博物館 待兼山修学館

3階 多目的室・セミナー室

シドニー在住の写真家金森マユ氏は、オーストラリアの日系移民の記憶を辿った写真や映像、パフォーマンス作品を多く発表してきました。今回はその厳選した写真によって、人間にとって〈定住とは何か〉を問う写真展を開催します。

### 第16回特別展

モダン中之島コレクション

“大大阪”時代の文化芸術発信センター

主催 大阪大学総合学術博物館

共催 大阪大学大学院文学研究科、同大学院工学研究科

協力 大阪市中央公会堂、大阪くらしの今昔館、大阪歴史博物館、大阪大学大学院医学系研究科医学史料室、株式会社竹中工務店、リーガロイヤルホテル

後援 関西経済同友会

期間 2022年4月28日～7月30日

会場 大阪大学総合学術博物館 待兼山修学館

3階 多目的室

大正14年(1925)の第2次市域拡張で東京市を抜いて日本最大、世界第六位となった“大大阪”時代を中心に、中之島が文化芸術に果たした役割を、文化施設関係のパンフレットや絵画、写真、地図、刊行物など、当時、日常生活や社会に氾濫した“イマジユリイ”(イメージ図像)を中心に再検証します。

## 大阪大学・九州大学巡回展 「緒方洪庵と武谷棕亭」電子展示公開



監修 大阪大学適塾記念センター 准教授 松永和浩  
九州大学大学文書館 准教授 赤司友徳

共催 大阪大学適塾記念センター・適塾記念会、大阪大学総合学術博物館、九州大学医学歴史館、九州大学附属図書館、九州大学大学文書館

協賛 九州大学医学部同窓会

協力 福岡県立図書館、福岡市博物館市史編さん室  
武谷棕亭生誕200年記念 大阪大学・九州大学巡回展「緒方洪庵と武谷棕亭」が、2022年4月に九州会場で開催されます。巡回展に先立ちまして、九州大学附属図書館のホームページで電子展示が公開されています。詳しくは下記URLをご覧ください。

九州大学附属図書館ホームページ

<https://www.lib.kyushu-u.ac.jp/exhibition/takeya>



\*新型コロナウイルス感染拡大防止のため、開催日等が変更になる場合があります。ご来館前に当館のホームページ等で最新情報をご確認ください。

## 博物館の教育への活用 —博物館学実習・FD研修の実施—

大学博物館は、博物館であると同時に、“大学”内にある機関である所以から、『教育』という部分が重要な位置を占めている。大阪大学総合学術博物館でも、設立以来、教育に関して、さまざまな活動を展開してきた。私が所属する本学博物館資料部を中心とする活動をいくつか紹介したい。

資料部を中心として、数人の展示に造詣の深い教員が本学内の博物館学実習を担当している。博物館学実習とは、学芸員資格を取得するために必須であり、『博物館の専門的職員たる学芸員としてのスタートが切れるだけの基本的な素養を身につけるためには、それらの知識・技術や理論を生かして現場で博物館資料を取り扱ったり、利用者に対応するなどの実践的な経験や訓練を積むことが必要である。』との文部科学省のガイドラインが示しているように、“実際の体験”が重要で

ある。本学博物館では毎年9月に博物館学実習の学内実習を担当しており、実際の展覧会を、実際の会場を用いて、実際の収蔵資料を用いて、実施していることは大きな特徴であり、ガイドラインの趣旨とも方向性を一にするものである。

さらに、実際の展覧会においても、教育への活用は積極的に実施している。第1には、学生の展覧会への積極的な関与である。私が実施している展覧会においては、基本的には企画の段階から学生に参画を促し、具体的な展示内容などについての意見交換も実施してきた。もちろん展覧会の設営などにも、これらの学生には参加してもらい、展覧会を実習の場として活用することができた。参加した学生には、学芸員を志すものも多数おり（美術館へ学芸員としての就職を決めたものも既にある）、そのような学生の実績作りとしても非常に有効であると感じている。第2には、展覧会とそれに関連する経験をファカルティ・ディベロプメント (Faculty Development, FD) の一環として本学博物館が実施している新任教員研修に取り入れていることである。座学と併せ、実際の展覧会を見学して頂くことで、大学博物館を活用したアウトリーチ活動実践についてのアプローチを紹介し、そのメソッドや考え方を学内の皆さまに習得して頂くことを志している。

以上のように、博物館では資料の整理・保存・研究・展示だけでなく、それらを活用した教育も行っていることを本学の皆さまにもご理解頂き、今後のご協力を仰ぐ次第である。

(伊藤謙)



学生参画による展覧会設営の様子

## 私にもできるアウトリーチ

大阪大学総合学術博物館を、大阪大学の研究者の皆様のアウトリーチの場として活用してみませんか？簡単なところでは、サイエンスカフェ等のコーディネーターから、特別展まで色々な規模のアウトリーチが可能です。まずは総合学術博物館までお気軽にご相談ください。

mail: kyousou-museum-tekijuku@office.osaka-u.ac.jp

## 第1回兼任教員コラム

博物館は各研究科の先生方に兼任教員をして頂いています。このコーナーでは兼任教員の方の活動をご紹介します。

深尾 葉子 (ふかお ようこ)  
大阪大学大学院言語文化研究科言語社会専攻教授

私は30年以上に渡る、中国大陸でのフィールドワークを実施してきた。その研究の一端を大阪大学総合学術博物館第23回企画展「CHINA GRAPHY 日本のまなざしに映った中国」として紹介させて頂いた。

言うまでもなく、研究のアウトリーチ活動は重要である。しかし、論文や学会発表だけでなく、より幅広く社会に還元することは大切であり、博物館での展示はその重要な選択肢の一つになると考えられる。私にとって展覧会によるアウトリーチ活動は初めての経験であったが、幸運なことに総合学術博物館資料部の伊藤講師と共同研究を実施してきた経緯があり、氏の指導のお陰で安心して開幕を迎えることができた。

本展覧会では、本学外国語学部（旧大阪外国語大学）の資料も紹介し、展覧会が縁で、新しい研究資料が見いだされたりもした。展覧会によるアウトリーチ活動は、大学博物館を有する本学だからこそできる、特筆すべき取



り組みである。私以外の本学教員も積極的に利用されることを望みたい。本展覧会では周囲の協力者の助けが不可欠であった。永田靖館長以下、総合学術博物館の館員各位にこの場を借りて、感謝申し上げます。

## ホームページ新規動画紹介

より多くの方に大阪大学総合学術博物館を楽しんでいただくために「デジタル博物館」を開館しております。これまでに開催した特別展や常設展など、教員の解説つきで随時公開しております。是非一度ご覧ください。新たに下記の動画が追加されました。

1 階常設展 コンピューターの黎明期より  
機械式計算機

1 階常設展 世界にはばたく研究者より  
大阪大学の歩み / 菊池正士 / 長岡半太郎 / 湯川秀樹 / 八木秀次 / 眞島利行

3 階常設展 待兼山に学ぶより  
待兼山の昆虫

動画は下記 URL または QR コードより  
アクセスください。  
<https://www.museum.osaka-u.ac.jp/digitalcontents/permanentcollection/>



## 編集後記

本号のレイアウトを担当しました研究支援推進員の波瀬山です。本年度は6月より開館を続けてまいりましたが、大変な状況の中ご来館頂いた皆様に心より感謝申し上げます。着任してまだ半年ですが、大学院で研究をしているだけでは絶対に出会えなかったであろう、様々な分野の方と知り合うことが出来ました。博物館はものを展示する場所ですが、その先には人との出会いがあり、ときには思わぬ方向へ自分の研究や人生を導いてくれます。博物館の活動にご興味のある方は、ぜひお気軽にお声がけください。

大阪大学総合学術博物館ニュースレター  
まちかねミュージアム  
発行日 2022年2月28日  
編集発行 大阪大学総合学術博物館  
グローバル情報委員会  
〒560-0043  
大阪府豊中市待兼山町1-20  
大阪大学総合学術博物館 事務室  
Tel : 06-6850-6284  
<https://www.museum.osaka-u.ac.jp/>